

# LIBRARY

## 図書館へ 行こう

新年のひかりさすとき  
図書館の書籍ら  
声たつごとくはなやぐ

弘前市立図書館館長 山谷英雄  
(歌誌「運河」代表)



## 弘前市立図書館

<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/tosho/>

各館の開館時間や情報はホームページでご案内しています

弘前図書館・岩木図書館・こども絵本の森  
相馬ライブラリー

指定管理者 TRC・アップルウェーブ  
弘前ベンクラブ 共同事業体

### Topics

最近じわじわキテル

## 「ビブリオバトル」って知ってる？

— ビブリオバトルとは、ゲーム感覚を取り入れた新しいスタイルの「書評合戦」。「バトル（発表者）」達が、自分が好きな本の魅力を5分間で紹介。会場の観客が一番「読みたくなった本」に投票し、その得票数で優勝＝「チャンプ本」を決定します。近年では、学生さん達を対象にし、YouTubeを用いた大会など、「ビブリオバトル」が全国各地の学校や図書館で開催され盛り上がっています！弘前の皆さんも学校や職場のイベントで開催してみよう！

【参考】知的書評合戦ビブリオバトル公式サイト [検索](#)

## 弘前図書館

■ 弘前図書館 弘前市大字下白銀町2-1(追手門広場内) ■ TEL 0172-32-3794  
■ 開館時間/月曜日から金曜日…午前9時30分～午後7時(土日祝は5時迄)  
■ 休館日/毎月第3木曜日

## 見逃せない戦いがある。“本”と“文学”のプロによる頂上決戦！

—「少しの小銭と明日の読書があれば、それでいいさ。」—

…そんな図書館と郷土文学館スタッフ達による

“自分が大好きな本”の魅力を競う戦いの火ぶたが切られる！

## ビブリオバトル in 弘前図書館

日時	2019年2月10日(日) 13:30～15:00(開場 13:00～)
バトル	弘前市立図書館 (弘前、岩木、こども絵本の森)と 郷土文学館の選抜スタッフ
会場	弘前図書館 2階 視聴覚室
観覧お申込み	弘前図書館のカウンターまたは お電話にてお申込みください。 TEL:0172-32-3794



## 岩木図書館

■ 岩木図書館 弘前市大字賀田1-18-3 ■ TEL 0172-82-1651  
■ 開館時間/火曜日から金曜日:午前9時30分～午後7時(土日祝は5時迄)  
■ 休館日/毎週月曜日・年末年始

### 2019年の運試し!

お正月特別企画

## 「おみくじ」

～1/13⑩まで

大人用・こども用を  
ご用意しています



### ワーク ショップ

かわいいブローチやヘアゴムを作ろう♪

- ①「親子でこぎん刺し教室」
- ②「はじめてのこぎん刺し教室」

日時 1月26日(土) ①10:00～11:30(定員5組)  
②13:30～15:00(定員10名)

講師 今愛さん 材料費 300円

参加方法 岩木図書館のカウンターまたは  
お電話にてお申込みください。  
TEL:0172-82-1651



必切  
1/18(金)

## こども絵本の森

■ 弘前市大字駅前町9-20ヒロコ3F  
■ TEL 0172-35-0155 ■ 開館時間/午前10時～午後6時  
■ 休館日/毎月第3木曜日(※祝日の場合は翌日に振替)

### Event

## 冬休みおはなしクイズラリー

～1/14⑩まで

こども絵本の森の中に貼ってあるクイズを探し答えをだそう!(ヒントコーナーもあるよ!)全部正解したお友達には「おめでとうカード」と「オリジナルぬりえ」をプレゼント!!

参加対象 幼児～小学生

こども絵本の森では、季節のテーマに  
ちなんだ本のご紹介、貸出しをしています。

今月のテーマ | 雪あそび ~2/2⑩まで



## 弘前市立郷土文学館

<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/bungakukan/>

各企画展についてはホームページで随時ご案内しています

■ 弘前市大字下白銀町2-1(追手門広場内) ■ TEL 0172-37-5505 ■ 開館時間/午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

■ 観覧料/(一般)100円・(小・中学生)50円 ※弘前市内の小・中学生、65歳以上の方、留学生、ひろさき多子家族応援パスポート、障がい者手帳をお持ちの方は無料です。

### 弘前市立郷土文学館 第43回企画展

## 太宰治生誕110年記念展

2019年1月12日(土)  
～12月28日(土)

### — 太宰治と弘前 —

太宰治(1909～1948)は、明治42年に旧金木村(現 五所川原市)に県下屈指の大地主の六男として生まれました。「罪、誕生の時刻に在り」「二十世紀旗手」との意識を自らの宿命として刻印し、生の不安と苦悩にさいなまれ、破滅的な生活の中から「斜陽」「人間失格」などの名作を生み出しました。その作品は「永遠の青春の書」として今なお多くの人に読み継がれています。

本展は、全国屈指の人気作家・太宰治の生誕110年という節目の年にあたり、太宰治が官立弘前高等学校の学生として生活した「弘前」と生誕地・金木をはじめとする「津軽」をテーマの中心に据え、貴重な資料により、太宰治の人と作品、太宰を育んだ風土について理解を深めていただくものです。



太宰治が  
愛用していた  
電気スタンド

官立弘前高校在学時の  
下宿先・藤田家で  
使用していた。  
笠の部分は復元。  
(三鷹市スポーツと文化財団蔵)

太宰治、もっとも古い手紙  
藤田本太郎、昌次郎に宛てた葉書(昭和2年7月8日)

官立弘前高校時代に書かれた落書き



「世界地図帳」の表紙裏

「化学」のノート



「青んぼ 創刊号」  
太宰治の三兄・圭治主宰の同人誌  
(大正15年9月1日発行)  
表紙:夢川利一(圭治筆名)

